世界遺産 熊野古道

先人たちの足跡を辿る

熊野三山（熊野本宮大社・熊野那智大社・熊野速玉大社）に詣でる信仰の道として発達をした「熊野古道」が紀北町にはいくつか遺されています。この参詣は「一度参れば一つの業が落ちる」といわれ、速玉大社は過去の業、那智大社は現在の業、本宮大社は未来のご利益を願うものとされた。

平成16年7月7日にユネスコの世界遺産委員会において、日本から推薦されていた「紀伊山地の霊場と参詣道」すなわち「熊野古道」は、文化遺産として「世界遺産」に登録されました。

ツヅラト峠

かつて伊勢国と紀伊国の境であった峠。伊勢から熊野へ向かう旅の途中、はじめて熊野灘を望むことができる場所。ツヅラトとはカーブが連続する九十九折のこと。石垣もよく保存されている。

登り口（紀伊長島）

荷坂峠

紀州への玄関は長らくツヅラト峠であったが、江戸時代初期に紀州徳川家の藩祖・頼宣公が入国して以来、東よりの荷坂峠越えが正式ルートになった。梅ヶ谷から峠までは国道沿いを通るが、町境を越えてからは下り坂の多いコースである。途中にある沖見平からの眺めは素晴らしく、ツヅラト峠と同様、紀伊の海が下方に広がっている。春に咲くオンツツジの花も美しい。

三浦峠（熊ヶ谷道）

三浦峠に至るひのき林が美しい一石峠の登り口には旅の安全を祈るがごとく温和な顔の無縁地蔵が佇んでいる。林道を下ると優美な海岸線を誇る古里海岸に出る。険しい山道の多い熊野古道の中で、この区間は旅人の心を癒してくれる平坦な海沿いの道である。古里トンネルを迂回するルートでは、洋々たる熊野灘が望め、展望台からの眺めも素晴らしい。

始神峠

始神峠(はじかみとうげ)は始神さくら広場の横を通って昇っていく江戸時代に出来た道と、明治時代に造られた道の二つの登り口があるが、頂上で合流している。頂上からは紀伊の松島の絶景が見渡せ、特に洋上に昇る日の出は素晴らしい。

宮谷池

夜泣き地蔵

馬越峠

馬越峠(まごせとうげ)は紀北町と尾鷲市の境界にある峠で天狗倉山(てんぐらさん)と便石山(びんしやま)の間に位置する。峠越えの古道は桧の美林とシダに囲まれて約2kmにわたり石畳が良好に保存されており、在りし日の様子が偲ばれる。峠から天狗倉山の山頂へと向かえば、熊野灘の絶景が見渡せる。